

## 2-15K-4-8 部分免荷トレッドミルトレーニングの免荷量とトレッドミル速度の増減調整の実際

<sup>1</sup>関西リハビリテーション病院リハビリテーション部, <sup>2</sup>リハビリテーション科学総合研究所

若竹 雄治<sup>1</sup>, 楯田 幸輔<sup>1</sup>, 松本 憲二<sup>1</sup>, 吉田 直樹<sup>1,2</sup>, 坂本知三郎<sup>1</sup>

【目的】部分免荷トレッドミルトレーニング(以下, BWSTT)は, 吊り上げにより対象者の体重を免荷した上で行うトレッドミル(TM)歩行訓練であり, 対象者の機能の変化などに応じて免荷量とTM速度を調整(変更)する必要がある. しかし, 調整基準は明確ではなく, また調整の実態を示すデータがほとんど公開されていない. そこで, 当院(回復期)の調整実施内容について, 調整量の増減傾向の観点からまとめて報告する. 【方法】対象者は, 過去2年間に当院でBWSTTを実施した90名の患者(主に脳血管障害). 各患者の各訓練時の(a)BWSTT開始日からの経過日数[日], (b)免荷量(体重に対するパーセンテージ[%]), (c)TM速度[km/h], を次のように解析した. 訓練期間中の免荷量の変化の有無で有調整群と無調整群に分けた. 有調整群はさらに, 訓練期間全体の(a)に対する(b)の近似直線の傾きを「増減率」として, これが正の「増加群」と負の「減少群」に分けた. また, (a)に対する(c)の増減率も求め, 群毎に解析した. 【結果】訓練期間の平均は $34 \pm 23$ 日. 無調整群は19名(21.1%)だった. 増加群は11名(12.0%), 減少群は60名(65.9%)だった. 増減率[%/日]の中央値(四分位数)は, 免荷量では増加群0.06(0.29), 減少群-0.50(0.62)であり, TM速度は増加群0.01(0.01), 減少群0.02(0.02)であった. 【考察・結論】訓練期間が進むにつれて免荷量は減らすのが一般的と考えられ, 今回の結果の全体的な傾向もそれに沿っていたが, 増加群が12%も存在した. 今後は対象者の特性や訓練効果の結果と合わせた検討が必要である.